

オープンジョイント工法

ゼオンサイディングはシーリング材を使用せず、ジョイントは重ね張りで施工します。にもかかわらず雨水は殆ど入ることがありません。これはオープンジョイント工法により外装材の内外で気圧差が発生しないからです。

オープンジョイント工法とは⇒なぜ雨水が入りにくい…？

日本家屋の伝統的な外装は、無垢板を横張りにして押縁などで押さえる下見板張りが多く見られました。雨仕舞に優れシーリングを使用しない点が特徴で、日本の気候風土に最も適したこの伝統工法を現代に生かしたのがオープンジョイント工法です。昨今は外装材で雨水の浸入を防ぐ一次止水工法が多く、そのため窓回りやコーナー部の役物回り、フード回りなど、ことごとくシーリング材で隙間を埋める施工を行っています。しかしこの工法では、シーリング材で密閉してしまう事による外装材の内外での気圧の差によって、

シーリング材の劣化とともに高い気圧である外装材の表側から低い気圧の壁内側に雨水が侵入してしまう事になってしまいます。つまり山から谷に向かって水が落ちていくのと同じ現象が生じます。それに対してゼオンサイディングのオープンジョイント工法は、シーリング材を使用しないので、すべての役物と本体の間から空気が流入することにより、圧力差の発生を防いでいます。壁内外で気圧の差を発生させないということは、外壁側から壁内側に雨水が容易に入らない仕組みであるということです。



注意 オープンジョイント工法は雨水等が入り難い構造ではありますが、全く入らない訳ではありません。従って施工に際してはサイディングの下地に透湿シートを用いる等、下地での防水処理を完全に行なって下さい。

押し縁下見板



外壁内外の圧力差と漏水

